

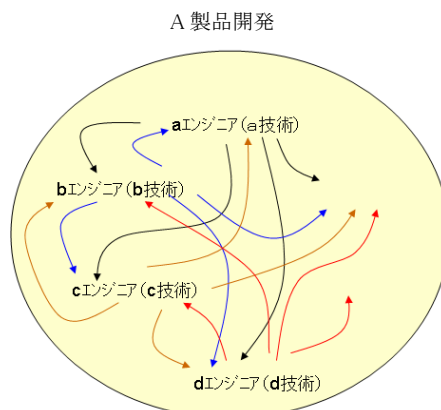
製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
— 要素技術を束ねるエンジニアリングリーダーの存在 —

株式会社ジョンクエルコンサルティング
代表取締役 落合 以臣

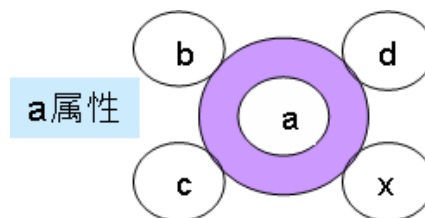
Keywords

要素技術・集合体・仕様書・変更・後戻り・工程・調整・効率

製品開発を効率よく進めるためには、製品開発全体のコーディネーションをつかさどるリーダーを要素技術面から支えるエンジニアリングリーダーの存在が重要となります。一般的メーカーでは、エンジニアリングリーダーという職種に馴染みが薄いと思いますが、製品開発のリーダーとエンジニアリングリーダーが両輪になって製品開発を運用しないと効率のよい製品開発を推進することが難しいといえます。このエンジニアリングリーダーの役割を説明したものが、右上図になります。あるAという製品開発が発足したとしましょう。この製品開発にa～xのエンジニアがa～xの要素技術を持って参加したとします。製品開発なので当然のことながらa～xのエンジニア全員が関係しますが、特に、仕様書の取り合いなどでエンジニア同士強く関係するところが出てきます。これを属性と呼び、右下図になります。



たとえば、aエンジニアはbエンジニア、cエンジニア、xエンジニアと関係すると、その属性をまとめる役目を負う人、ここではaエンジニアとします。aエンジニアは、bエンジニア、cエンジニア、xエンジニアに対して仕様書の変更の確認であるとか、成果などを逐次精査しないと目標を達成することができません。具体的な内容をもって説明すると、工程も半ばまで進み仕様書に関する変更も多くなります。製品開発のスタート時は、仕様書の変更も少ないために変更番号も少ないですが、日が経つにつれて仕様変更を余儀なくされるために変更番号も多くなります。こうなりますと誰か管理する人がいないと、全体的に仕様変更番号10であるのにbエンジニアは仕様変更番号10で進めているが、cエンジニアは変更番号9、xエンジニア8で進めていることがよく起こります。このような行き違いを調整しないと、量試の段階で組み立てようとしたときに、組み立てられないという事態を引き起こし、やり直しをしなければならないということにもなりかねません。



したがって、a～xの要素技術を集合させながら、それぞれの調整を行っていくことが重要であることがわかります。この要素技術の集合体をエンジニアリングと呼び、調整する人をエンジニアリングリーダーと呼びます。エンジニアリングリーダーは、別名調整役とも呼ばれます。

このように、製品開発を効率よく進める方法として、製品開発を要素技術の側面から支えるエンジニアリングリーダーの存在が重要になります。

この JQ International Review が、愛読される方の背中を押すことができれば幸いです。